

第122回NRIメディアフォーラム

ブロードバンド市場/モバイル市場/ネットビジネス市場 ～ ICTはインフラの普及から利用へ ～

2009年12月24日

株式会社野村総合研究所
情報・通信コンサルティング部
主任コンサルタント

宝川 洋介

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-5 丸の内北口ビル

目次

1. ブロードバンド市場

2. モバイル市場

3. ネットビジネス市場

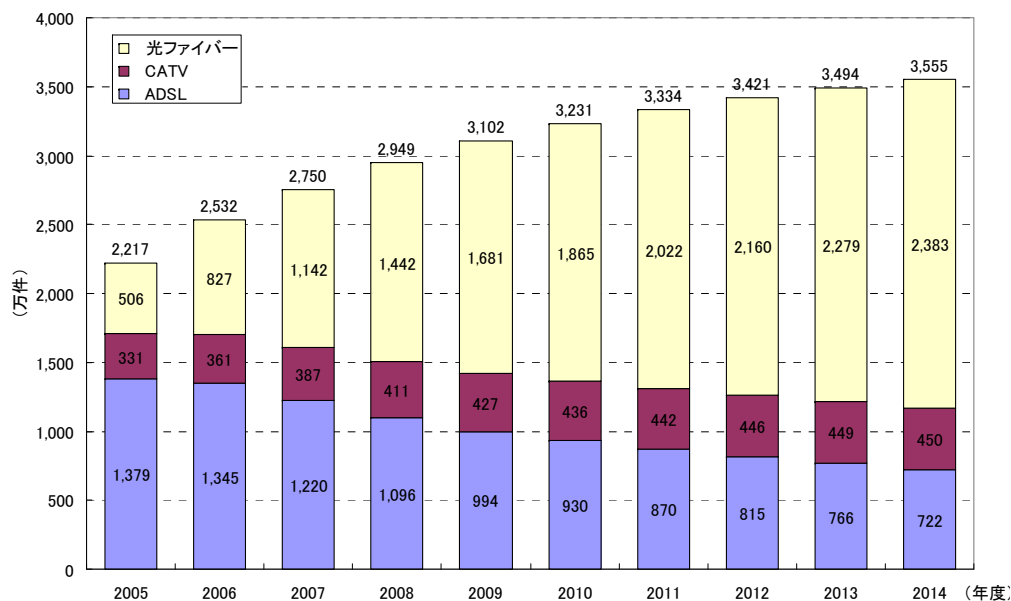
1. ブロードバンド関連市場

ブロードバンド加入件数は2014年度で約3,500万に。これまでと同様に光ファイバーが市場を牽引し、5年後には約1.4倍の約2,400万加入まで拡大

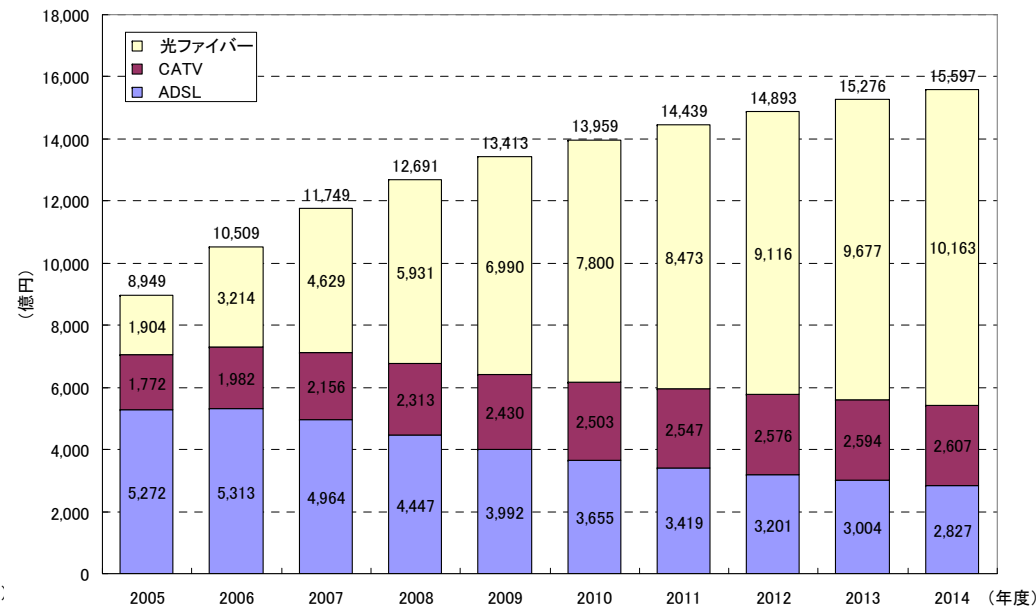
■ 2008年度には累積加入件数でADSLを逆転した光ファイバーは堅調に推移

- 通信事業者各社の販売促進施策などの効果もあり、光ファイバーへの移行が進む
- 一方で、ADSLは光ファイバーへの乗り換えにより減少傾向が進む

ブロードバンド加入件数予測



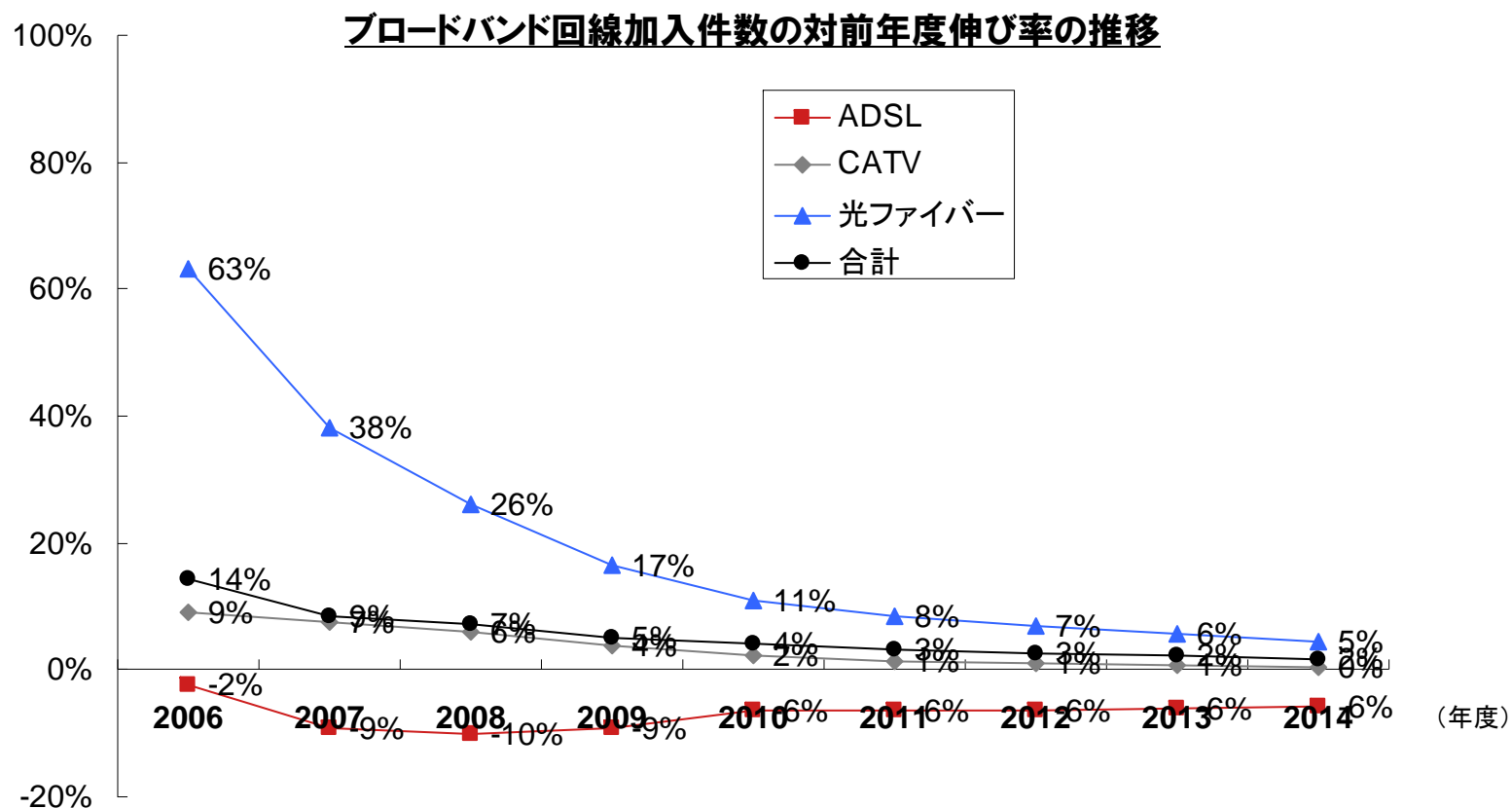
ブロードバンド市場規模予測



1. ブロードバンド関連市場

光化は進むものの、ブロードバンド市場全体は飽和へ

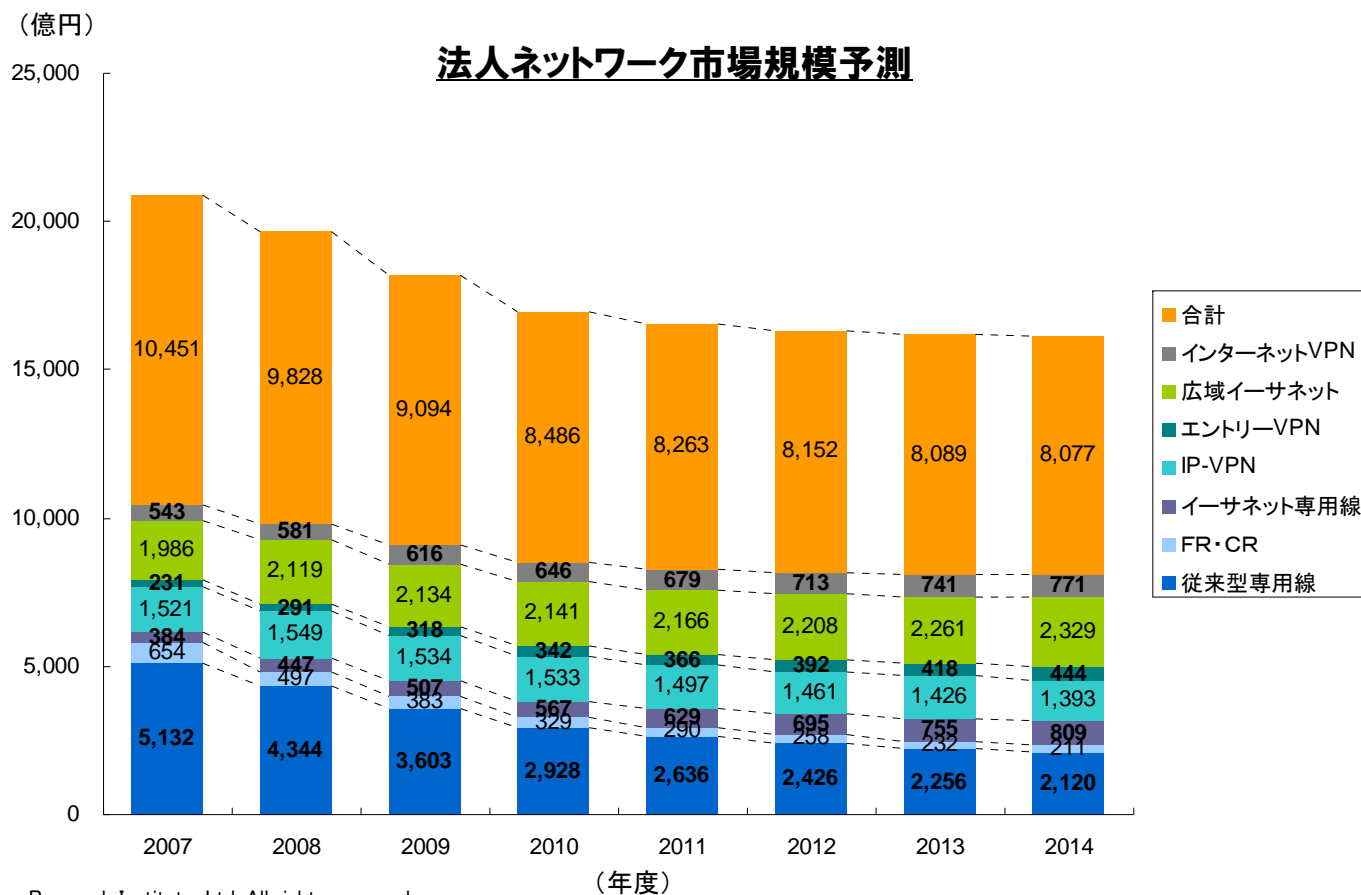
- 現在のブロードバンド回線の主役である光ファイバーも2014年度には約5%の成長に留まる



1. ブロードバンド関連市場

法人ネットワーク市場は、従来型専用線から新型WANへのシフトが進む。 企業のコスト削減の取り組みにより、市場全体は縮小へ

- 市場の縮小に伴い、通信事業者はもはや法人向けネットワークの提供だけでは収益の拡大が期待できなくなりつつあり、事業領域の拡大が求められている
- 大手の通信事業者を中心に、セキュリティやデータセンターを組み合わせたソリューション領域への展開が進められている

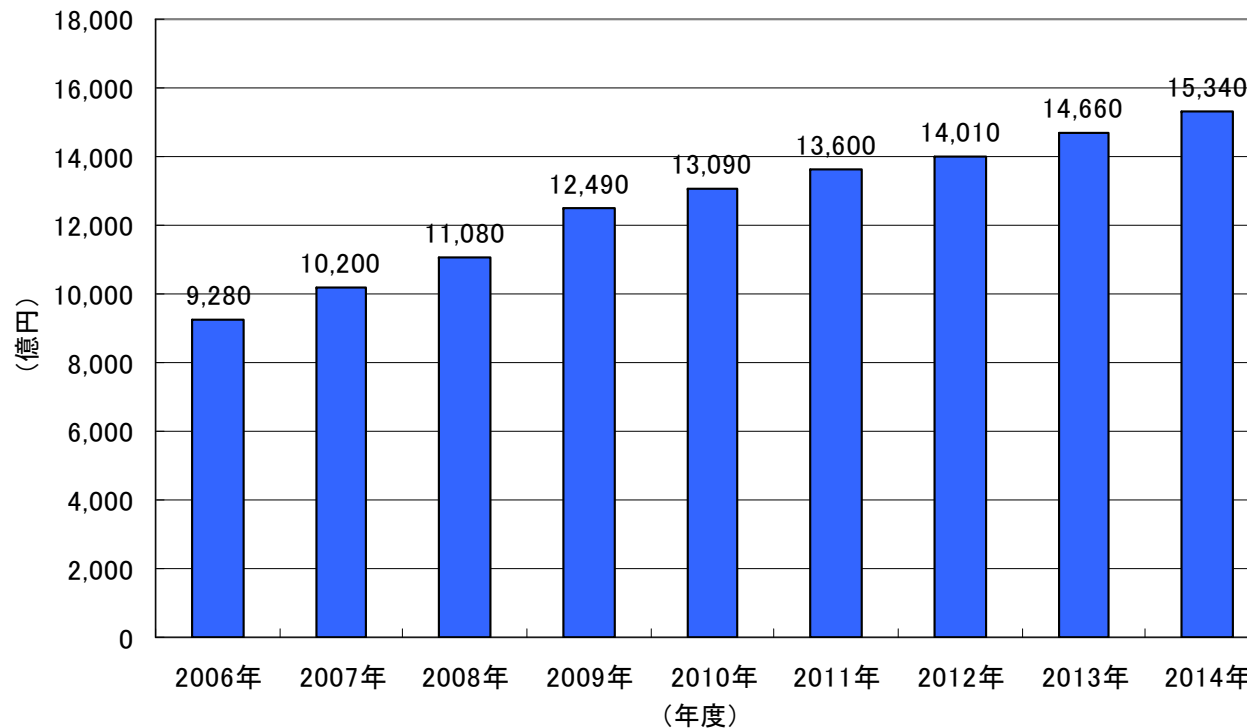


1. ブロードバンド関連市場

ネットワークを流れるデータ量の増加、企業の事業継続性やコンプライアンスに対する関心の高まりから、データセンター市場は新たな需要期に

- データセンター市場は、2009年度には1兆2,500億円、2014年度には約1兆5,300億円に達すると予測される
- “クラウドコンピューティング”のサービス基盤という観点からも今後データセンターに対する注目は高まる

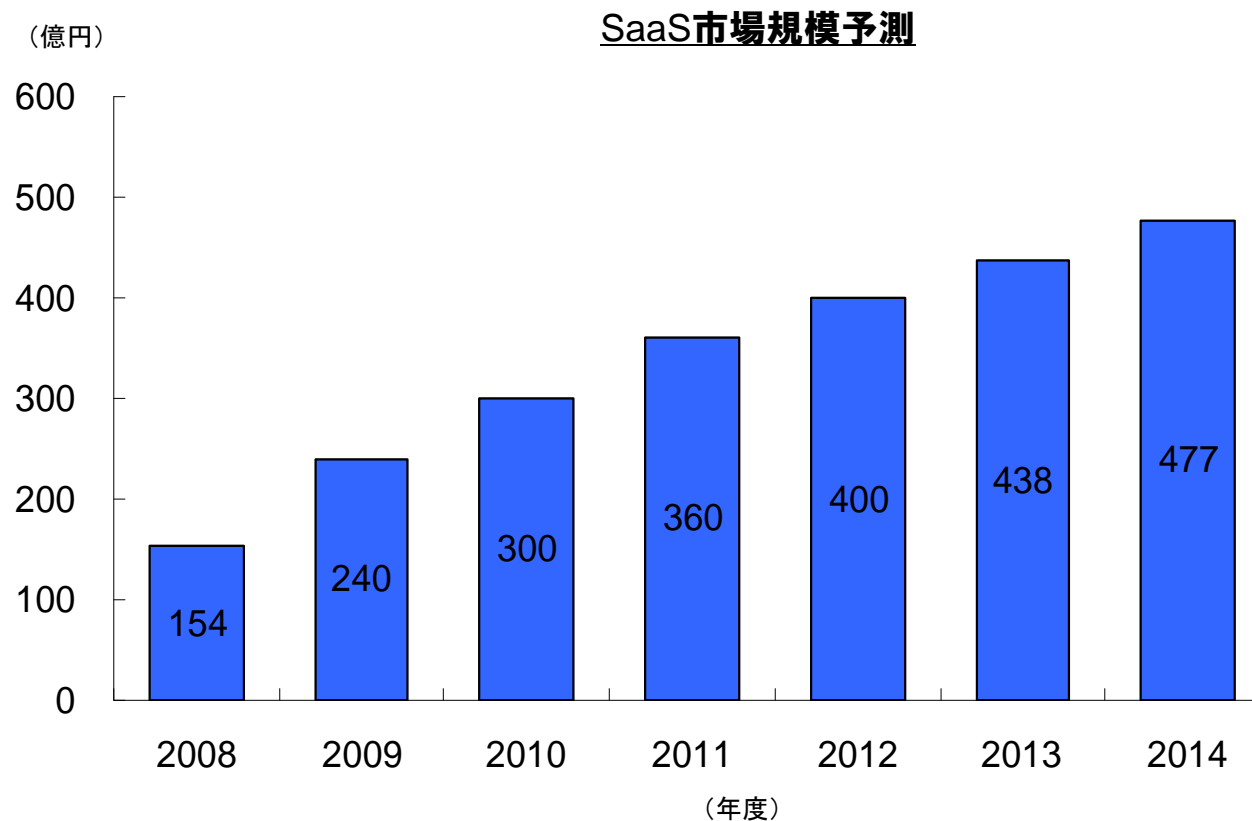
データセンター市場規模予測



1. ブロードバンド関連市場

利用者の情報システムに対する考え方は“所有”から“利用”へ。 SaaS市場は今後本格的な立ち上がりが期待される

- SaaS市場は、代表的なアプリケーションの導入が進むことにより費用対効果が明確になっていくことで、ユーザーサイドでの導入が進み、2014年には477億円に達する
- 専門系の事業者に加え、これまでパッケージや個別システム開発を中心にビジネスを行ってきたITベンダーの参入も進む

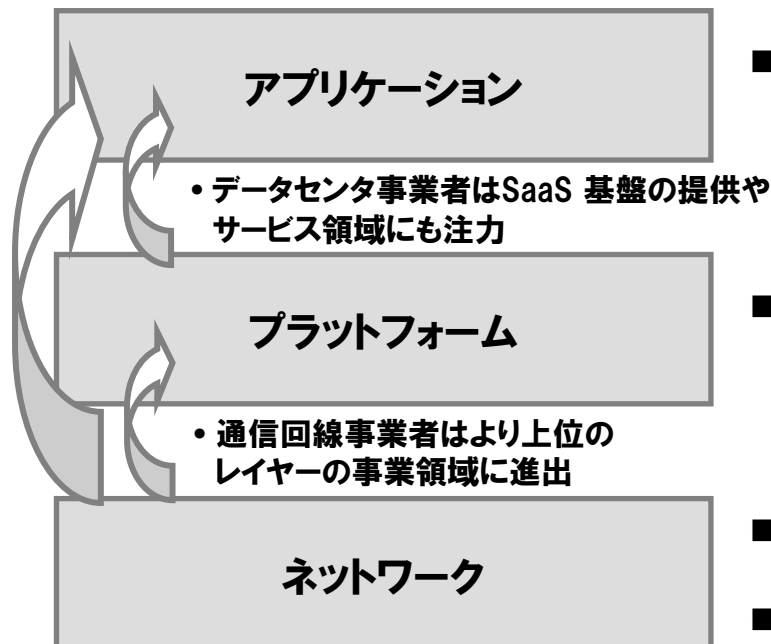


1. ブロードバンド関連市場

ネットワーク領域は飽和。今後はアプリケーション領域と、それを下支えするプラットフォーム領域が成長市場に

- SaaSなどの新たな形態で情報システムを提供するビジネスやこうしたサービスの基盤となるデータセンター市場が成長領域となる
- 各レイヤーの事業者は事業領域の拡大による成長を目指す

ソリューションビジネスのレイヤー階層



IT市場ナビゲータ2010年版対象市場

■SaaS市場 CAGR:14.7%

• データセンター事業者はSaaS 基盤の提供や“箱貸し”ではなくサービス領域にも注力

■データセンター市場 CAGR:4.2%

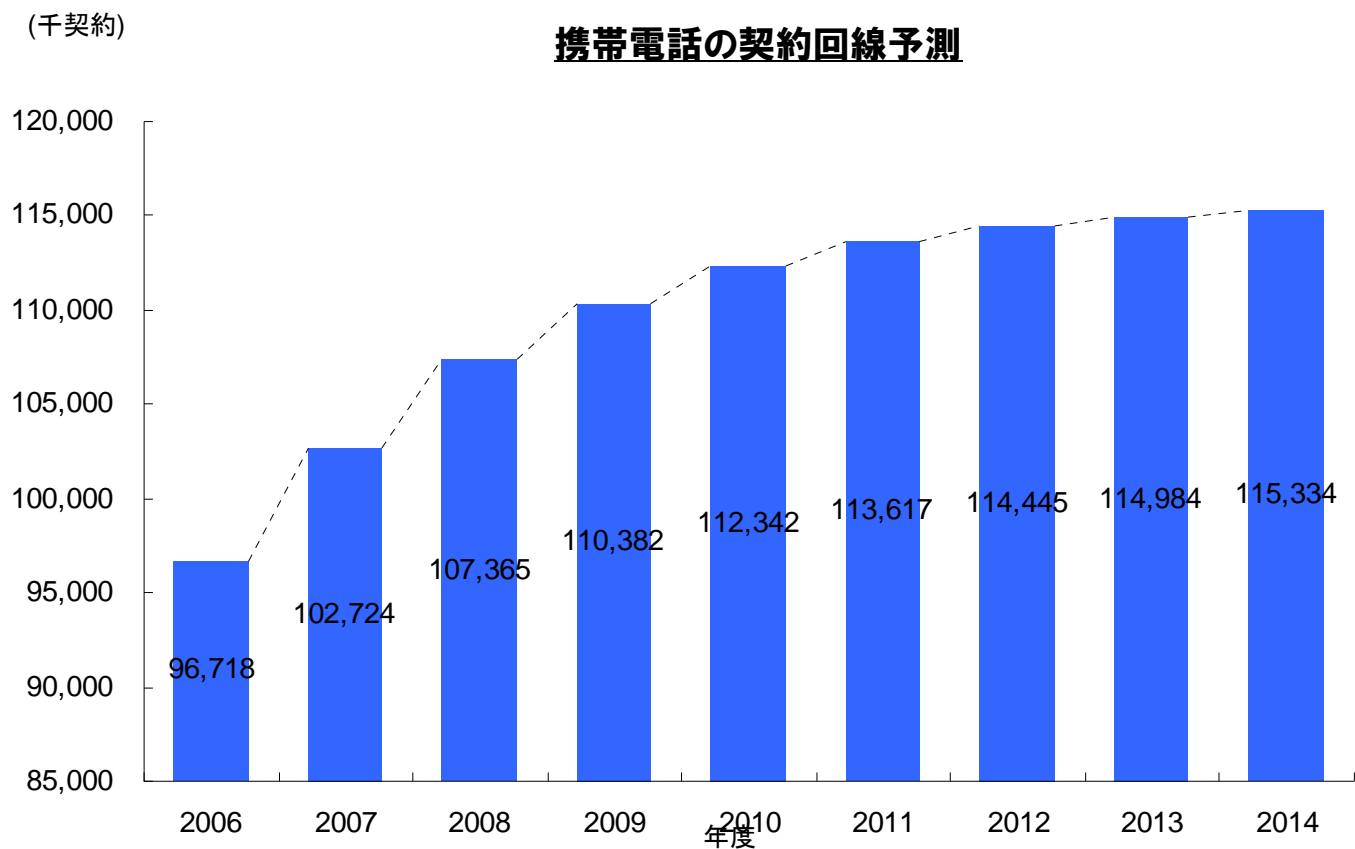
■ブロードバンド回線市場 CAGR:3.1%

■法人回線市場 CAGR:-2.3%

2. モバイル市場

契約者数の伸びは鈍化しつつあるものの、依然として契約回線数は増加

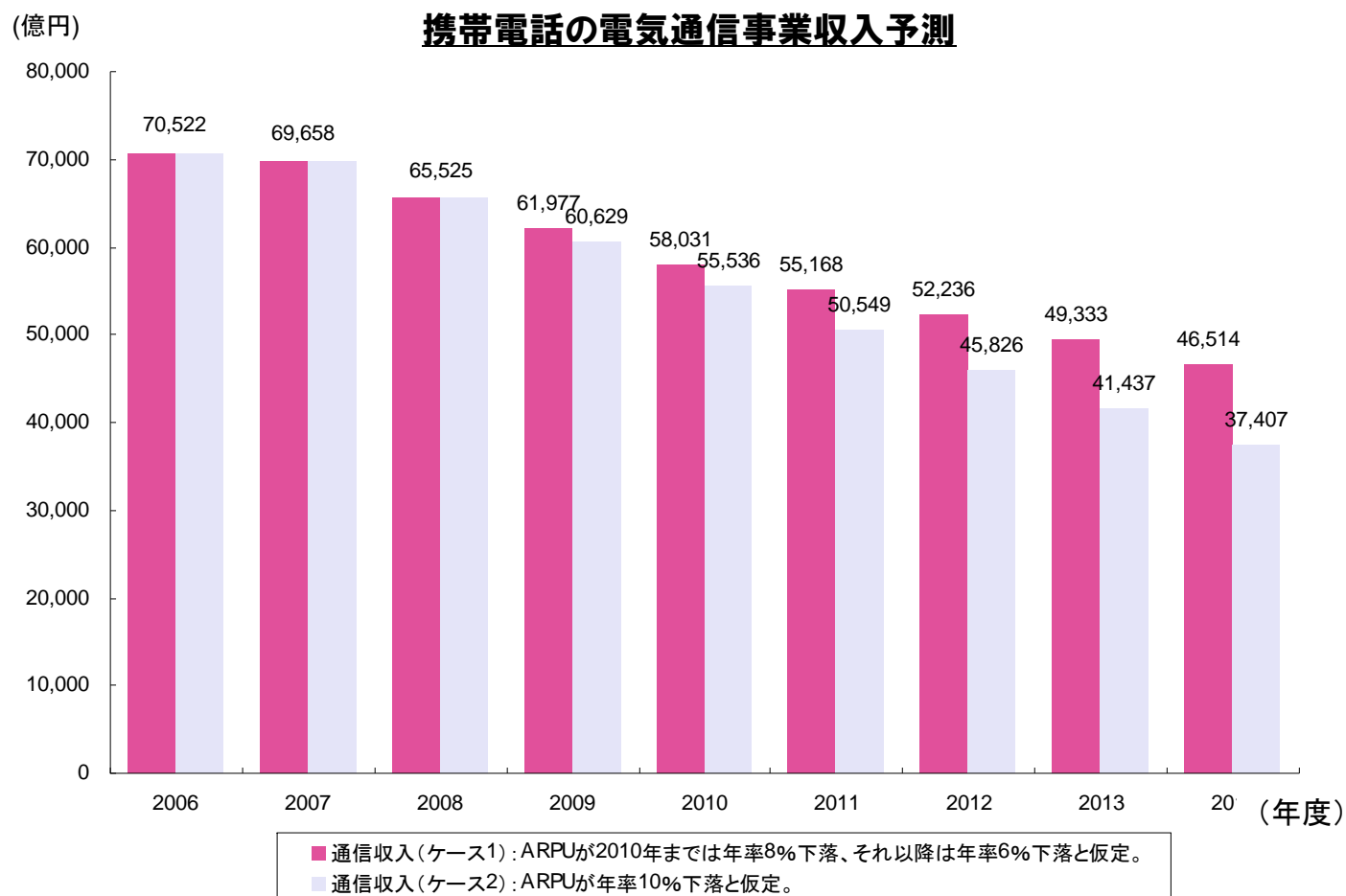
- 市場成長の主な要因は、個人が複数台の携帯電話を保有する「二台目需要」の増加。
- 上記に加えて、法人需要の増加、高齢者や若年層の新規加入などが市場成長の要因となっている。



2. モバイル市場

電気通信事業収入は低下。ARPUの下落が続いている

- 契約回線数の成長鈍化、ARPUの下落、端末奨励金の廃止に伴う買い替え台数の減少などが主な原因

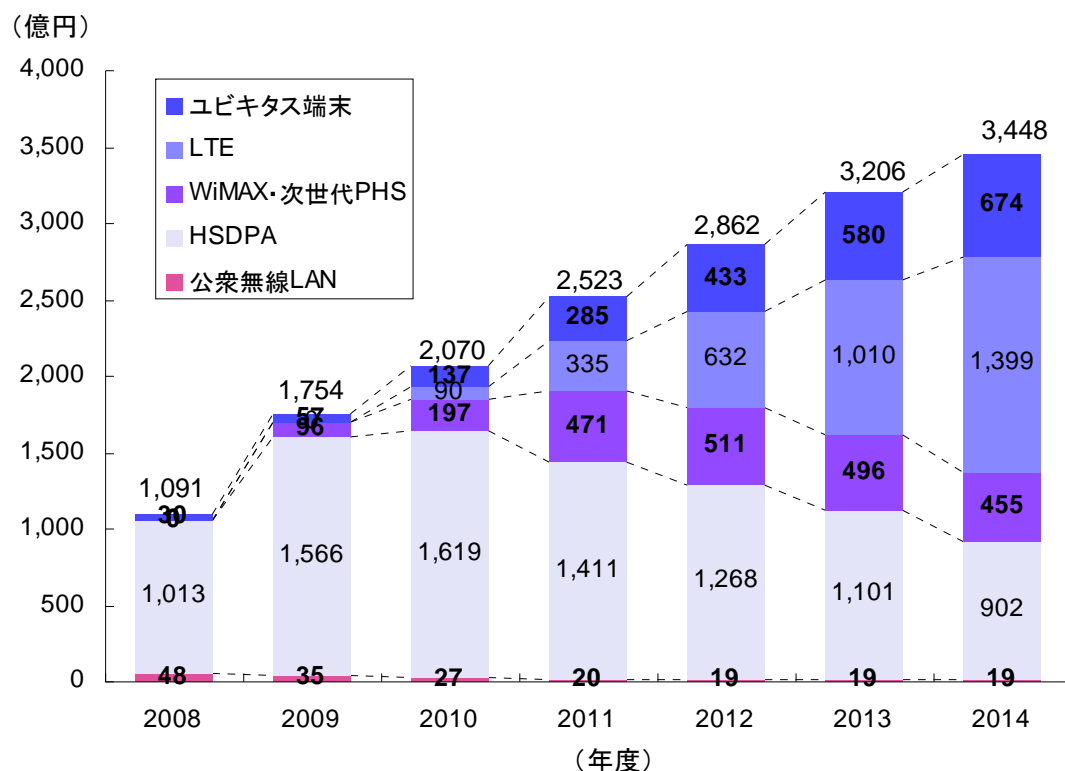


2. モバイル市場

ワイヤレス・ブロードバンド市場はWiMAXや次世代PHS等の普及や、第3.9世代携帯電話の規格であるLTE(Long Term Evolution)の提供が開始される事で約3,500億円まで拡大

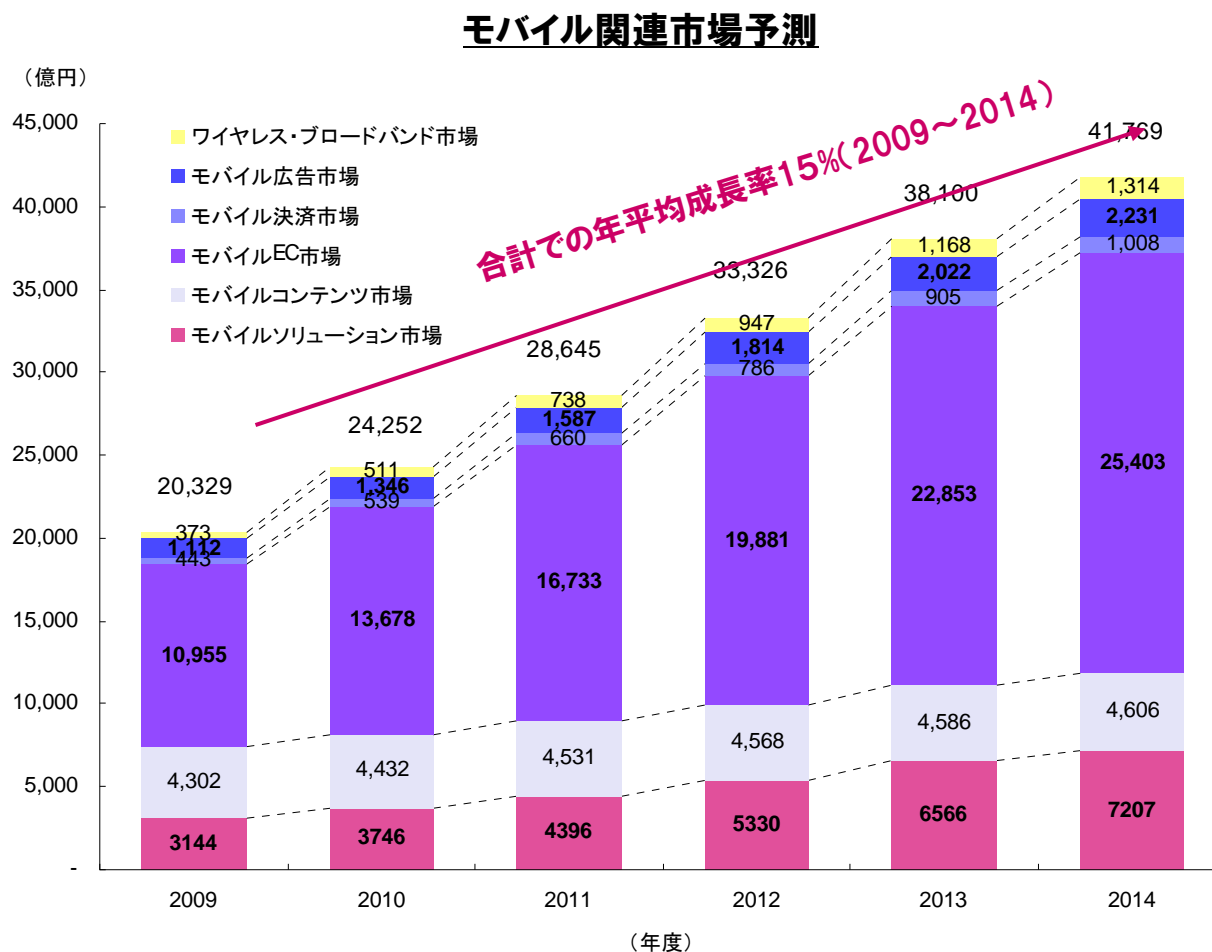
- WiMAXや次世代PHSなどの高速サービスの普及に加え、さらに高速な通信が可能であるLTE(Long Term Evolution)が登場(2010年以降開始予定)することにより、価格面・提供エリアでの競争が進む
- カーナビゲーションや携帯型ゲーム機、携帯音楽プレイヤーなどの普及台数の多いPC意外の端末(ユビキタス端末)がモバイルデータ通信サービスに対応するようになればモバイル・ブロードバンドの利用者拡大に繋がる

ワイヤレス・ブロードバンド市場予測



2. モバイル市場

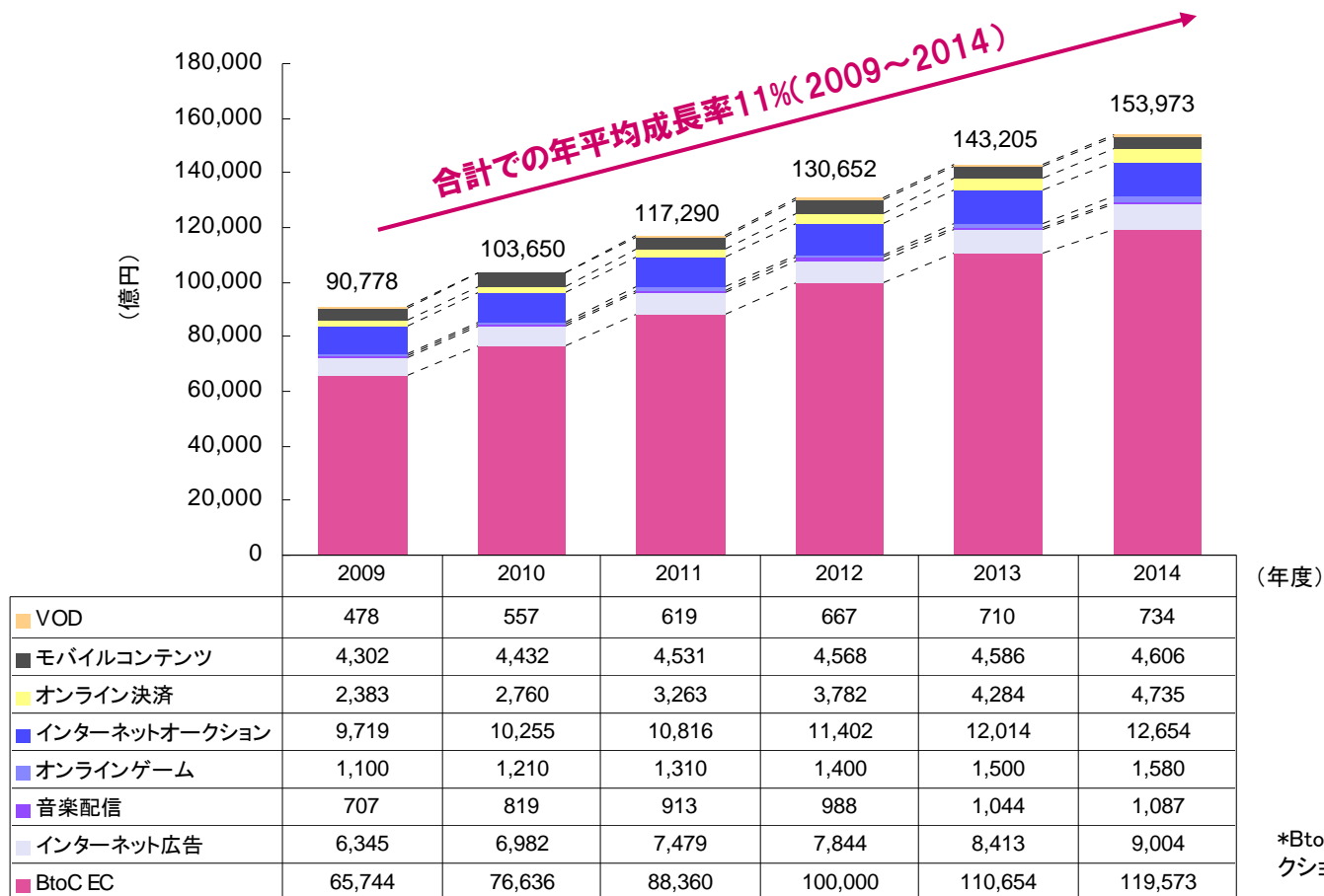
モバイル関連市場は年平均成長率15%で拡大。「量的な」成長から「質的な」成長へ



3. ネットビジネス市場

ネットビジネスは2009年度末9.1兆円から2014年度末には15兆円へと拡大

広義のネットビジネス市場の予測

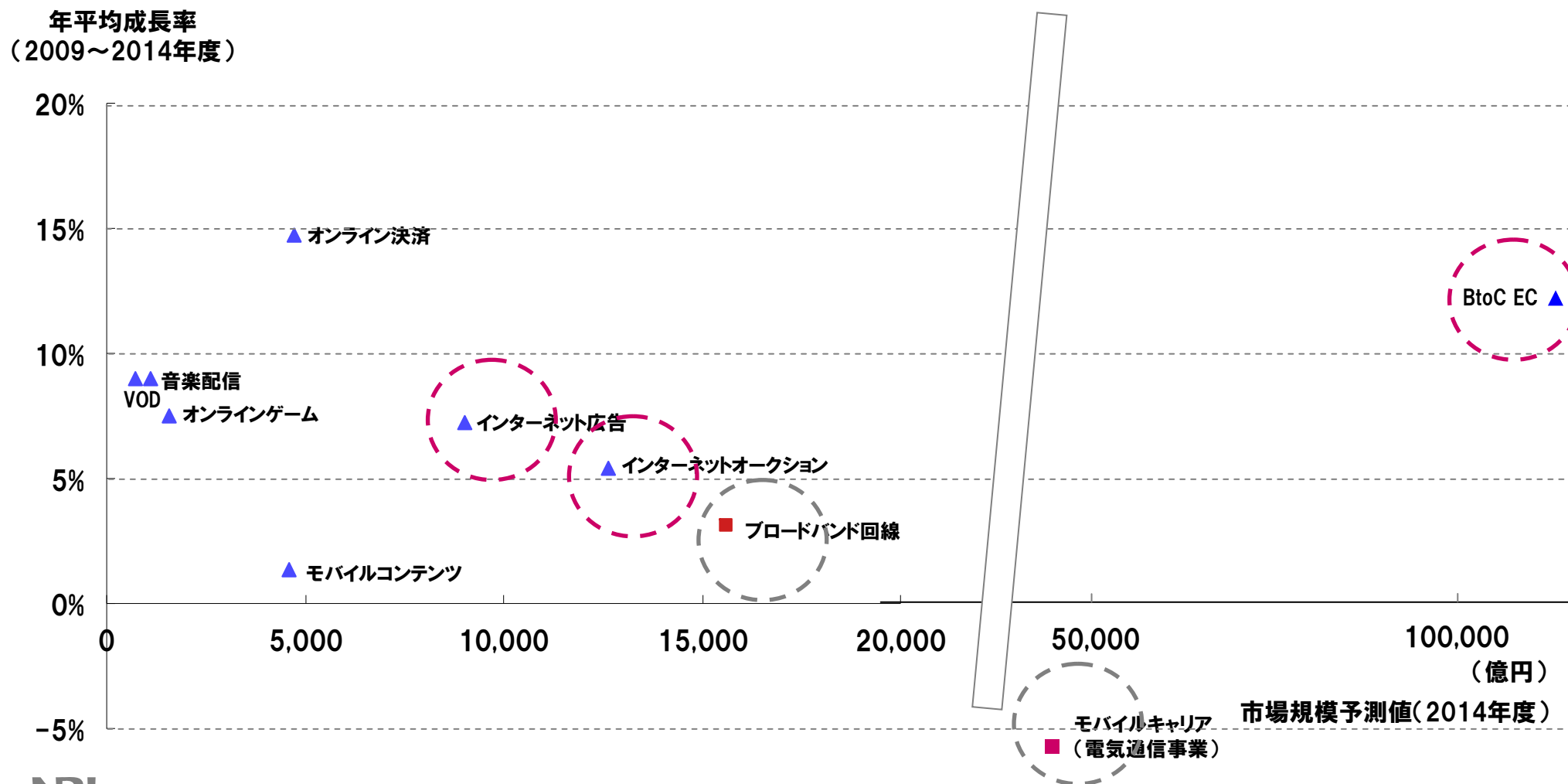


*BtoC EC市場、インターネットオークション市場は、流通総額

3. ネットビジネス市場

インフラであるネットワーク関連市場の成長率が低迷する中、ネットビジネスは堅調に拡大。一方で、コモディティ化が進むことによる成長速度の減少も懸念される。

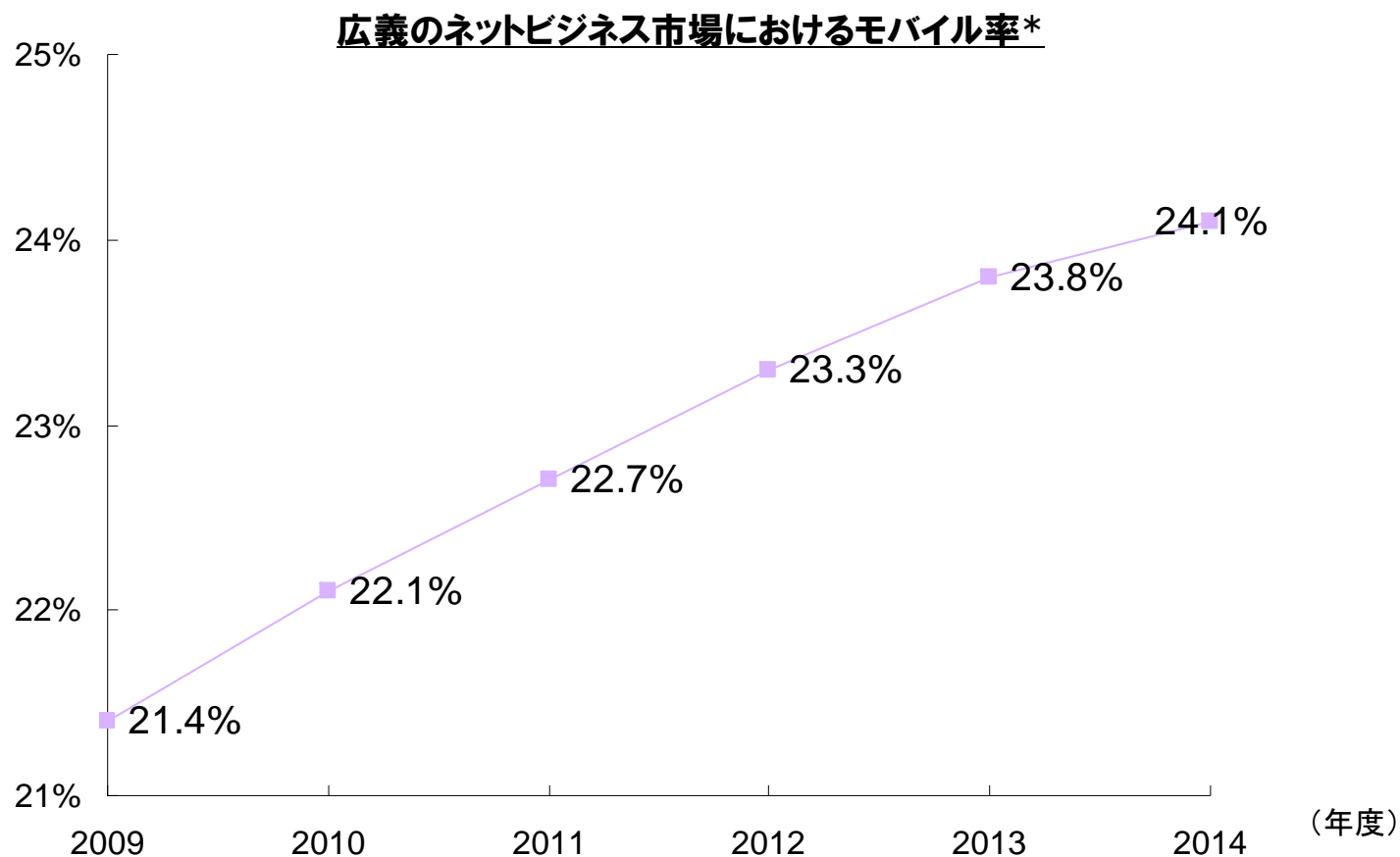
■ 規模及び成長率から、注目度が高い市場はEC、広告、オークション



3. ネットビジネス市場

携帯電話経由での利用がネットビジネス市場を牽引

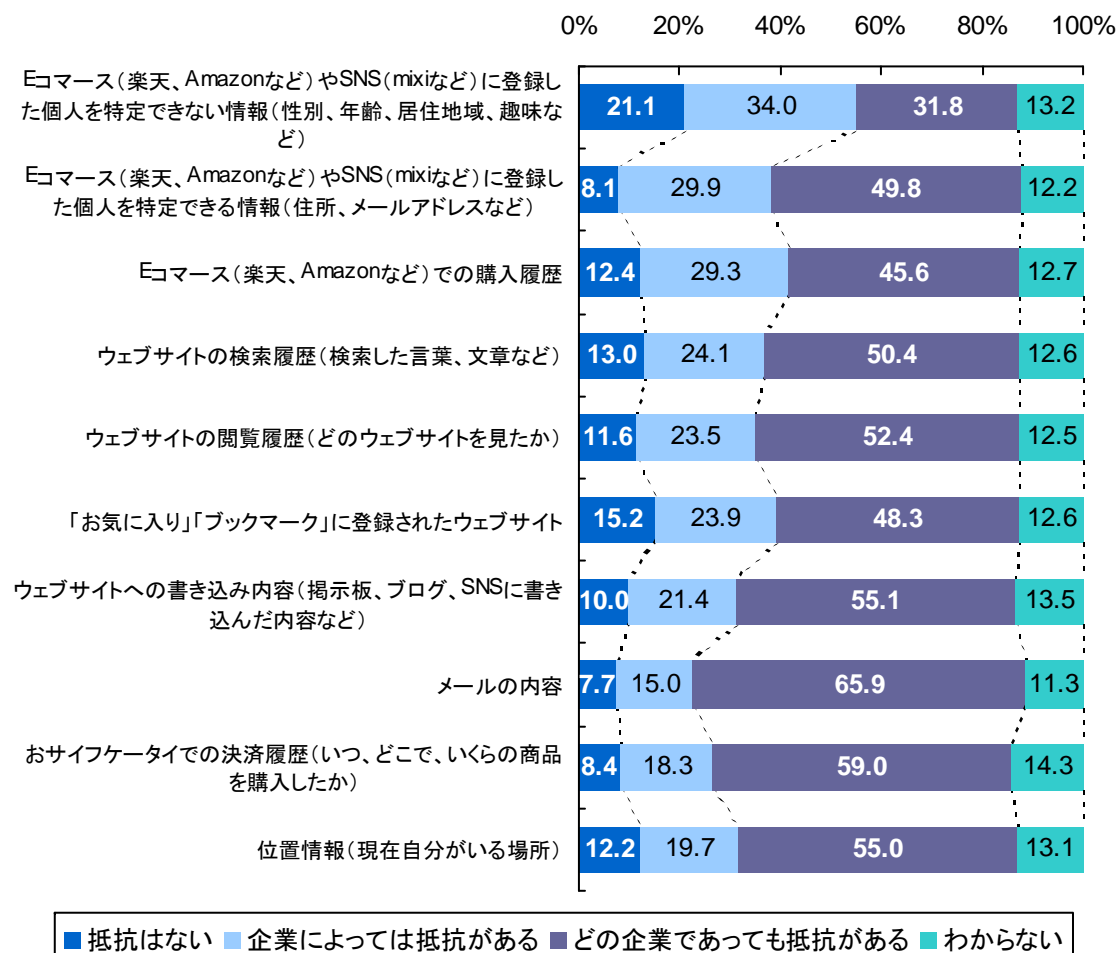
- 端末から通信インフラに至るまで、利用者が携帯電話経由でサイトを閲覧する環境が整う中、携帯電話を利用したネットビジネスの存在感が拡大していく。



3. ネットビジネス市場

利便性の向上を目指す一方で、 情報の取り扱いについては消費者心理への配慮も必要

広告配信を目的としたユーザーの情報取得・利用に対する消費者の抵抗感(N=2,069)



まとめ

- 無線・有線共にネットワーク回線の進化は進むが、加入者数獲得競争は終焉を迎えつつあり、回線提供サービス市場は飽和へ。
- 今後は、これまでの「普及」から「利用」の視点が重要になる。既に普及が進んだインフラ上で提供される様々なサービス市場が成長領域となる。
- 通信事業者にとっては契約数という「量的な拡大」から、顧客あたりのロイヤリティの向上という「質的な拡大」へと注力ポイントをシフトしていく事が求められる。
- 顧客ロイヤリティを増大させるためのポイントは「利用者視点」でのサービス提供。利用者の「使い勝手」と共に、「安心して」使えるサービスを作り上げていくことが重要となる。